

資料1 部会④協議の整理 テーマ:「シブヤ未来科」の実践から、「ふるさと中川学(仮称)」において、中川村でもできそうなこと、中川村だからこそできそうなこと

項目	グループ1	グループ2	グループ3
<p>視点1 カリキュラムの内容</p>	<p>・探究的に学ぶ学び方 小1～中3 それぞれに合わせた体験を積む 元気でハメを少し位はずしても個々を大事にできる 楽しく学べる 少人数で学べる学習 1対1での学びの時間 探究の仕方を学ぶ 子供に探究の仕方をしっかりレクチャーする ICTの使用NGで行う時間</p> <p>・探究的に学ぶ内容 一つのテーマを決めるなど 一つ一つの内容をできるだけ深く追究できるように 「中核活動」が中核となるカリキュラムを思い切っつくる 自然をしっかり教えられる 自然体験(地元のキャンプ場) 自然を生かした内容 小1～中3 まで取り組む 豊かな自然から学ぶもの→手にさわり、水やりなどを実際に行うこと 人を学ぶ 田舎でも学べるので</p> <p>・探究的に学ぶねらい 「ともにまなびひとりだち」 1～3年「ふるさとで遊ぶ」ともに 4～6年「ふるさとと学ぶ」 7～9年「ふるさとになる」ひとりだち ↓ ふるさとのよさ、問題から解決の道筋を見いだし汎用的な方策を提案する。</p> <p>・日課の組み方 (ねらい)行きにくい子も見通しもちやすくする 1～4限 「どだい」の時間(国、算、社、理) 「つくる」の時間(図、音、体) 1限 「わたし」の時間(道) 「みんな」の時間(特活) 5・6限 「〇〇」の時間(総合、生活) 「どだい」の時間にAI、CBTを活用して、どこで学んでもよいようにする</p> <p>・保育園から小・中学校への接続 保→小→中がつながっている学びができる 農業(作る) 動物(育てる)</p>	<p>・探究的に学ぶ学び方 My 探究の発表が終わりな訳ではない 探究発表 1つが一区切りしたあとのフィードバック 「キャリア教育」→「人生語り」 おしごとずかん 自由な働き方人生 中川村だからできる体験と都会だからできる体験 それぞれの学校の生徒で共有する 基礎的基本的な学力は身に付けさせたい 子どもの願いをもとにした体験活動(リアルな空気感) 学校の先生の負担をできるだけ少なく 「体験」から学ぶ(環境問題は体験からしか) 「冒険教育」の手法 主体的にチャレンジ チームで協力する 野外で探究 「冒険教育」 “フロー”の概念 中川だからこそ体験重視 ひとりこむ あそびこむ 校外へ出たの実体験 広い校舎を存分に使った授業 体育や農業</p> <p>・日課の組み方 授業時数の検討</p> <p>・保育園から小・中学校への接続 「やまほいく」を基礎に 保育園での遊びを通した学び、実体験、理屈抜き！ 遊び込むこと「山ほいく」</p> <p>・グローバルな学び 環境教育(循環型社会) 給食で食農教育</p>	<p>・探究的に学ぶ学び方 とにかく外に(村内)出る 地域を学ぶ 探究の素材を外へ探しに行く 知識を蓄えるだけでなく体験する 例えばりんごの木のオーナーになって、1年を通して主要な作業をやってみる 農業体験 総合ありきではなく教科とつながる基礎学力もちゃんとつくカリキュラム 探究力を教科学習にフィードバックできるカリキュラム 教科も探究的な学びを大切にしていく PC だけに頼らない体験を大事にした探究 学年で役割を定めず、高学年を見習い、低学年によりそう 縦割り 1年と2年とか複数学年一緒にの授業ができると良いかな… 公民館・歴民間との連携 地域の職人さんと学校をつなぐ ↓ 大工/木工/左岸職人/竹細工/茅葺き/石積み etc…元気な人いる</p> <p>・探究的に学ぶ内容 中川村に関わることの探究の他に自分の好きな事を探究する時間も残して 日本の文化を学ぶカリキュラム 農業には全ての教科の学びがある ふるさと学習+図工のようなイメージで、里山の資源を暮らしに活かしてきた カリキュラム</p> <p>・探究的に学ぶねらい 低学年(小1～3)は野に放つ 中学年(小4～6)は遊び場を創る 高学年(中1～3)は小学生と共に遊ぶ。管理する。 中川村の自然を守る為の方法を1年生から考えさせる</p> <p>・日課の組み方 縦割の時間 子どもたちが学びたいことを学べるような授業、時間の確保(じっくり学べるように) 総合の日を(ex.水曜の午前中全部)作ると自由にあちこちでかけられる</p>

			週1日は探究の日 1時間、2時間ではなく毎週なり隔週で何曜日は全て野外学習(農業体験とか)
視点2 協働の仕組み	<p>・地域資源を活用 地域の人から学ぶ(調べる) 認められる機会がたくさんある学校</p>	<p>・企業等との連携 地域のOB、OG、企業？がつくった組織(会社)が協賛金、補助金をとってくる 地元企業との連携 都会の企業との連携 地域住民の団体(組織)つくる！ たくさん企業はないけれど…地域の人たちが身近にいることを生かす</p> <p>・ごちゃまぜの学び 先輩たちと共に学ぶ 高校生・大学生→探究求められる</p> <p>・交流・地域との協働 都会・日本の地方・世界の地方と交流することで自分たちがわかる プロボノ(ラテン語の「Pro Bono Publico」が語源。仕事で培ったスキルや経験を活かして社会貢献活動を行うこと) 山や畑の知恵 農業を生かす いろんな人の力をかりて フィードバックの際のアドバイザー(地域の大人？上の学年の人が下の学年の子へ) Web でつながる体験の機会を増やす コーディネーターの位置づけと活用 コンポスト仲間の輪(シブヤともつながる) 循環 畑-生ゴミ キャリア教育 一緒に校舎を作る 日本一のICT学校 海外の小中学生達とリモート交流</p>	<p>・企業等との連携 建設業協会との連携 山主さんとの連携 環境省「自然共生サイト」への登録=活動のPR</p> <p>・農業をベースとした仕組み 野菜等々 寄付してもらってその人たちと一緒に調理実習をやって給食を作って食べる 農家の方とつながる仕組み(間に入ってくださる方が必要)</p> <p>・地域資源を活用 先生は地域の職人さん 教員だけでなく大人皆で育てる PCをまったく使わない地域の人が授業 地域の人たちの力を最大限に生かしたい(先生だけじゃムリ) 地域の企業と連携してサポーターや部活指導員を 地域が知らないと交流も生まれない 技術も資源も中川村にあることは今後ものすごい資源となる</p> <p>・ごちゃまぜの学び 学年・学級を分けない探究の時間 縦割班の探究 授業のサポートを地域の人に 唯一人とりこぼさない為に</p> <p>・交流・地域との協働 地域の人々との交流 学校=地域交流の場 通学合宿の実施 地域公民館から通学する 登下校時に見守りを地域の大人全員で(無理なく出来る人が)</p> <p>・地域への発信 学校が何をしているか地域に広く発信</p>

<p>視点3 校舎の工夫</p>	<p>・心に残る場 子ども達の心に残る景色 美しい景色を切り取った様に見える窓の配置</p> <p>・校舎の工夫 木造、木質など 木がたくさん使われている校舎 手ざわり、ぬくもりを実感できる 校舎の向きを考えて建てる 人に慣れること(カフェなどの接待を通して) もの、こと、ひとのある学校 個人でも静かに過ごせる空間がある 個の時間も保障してあげる空間</p> <p>・敷地内の工夫 学校内に畑や果樹</p>	<p>・校舎の工夫 木造、木質 薪ストーブ(薪づくりもしょう)があつてあつたまる オノを作って木を三つ紐切りで切る 村の素材を使い、村の人々と一緒に校舎をつくる 四徳のカラマツを使った机や校舎 視察に来るような(渋谷に負けない) 探究学習のための教室があること！！ フリースペース 吹きぬけ オープンスペース(何でもできる多目的スペース的な) 校舎の土地が広い！！ ラーニングコモンズ 校舎のいろんな所で探究 人が少ないから建物、教室を広々使いたい</p> <p>・備品の工夫 ミニホワイトボード etc 机・椅子が移動式 ホワイトボードにも</p> <p>・地域の人が寄り安くなる工夫 地域の人が気楽に入って来られるような 村民が入ってこられる入り口がある 地域の人がつかえる体育館 etc(シブヤでそうになっていた)</p> <p>・敷地内の工夫 雨水を活用した校内自然 パーマカルチャー的な考えをとり入れる(水を敷地の中で循環) ビオトープ 建物緑化 給食 残渣 畑コンポスト施設</p>	<p>・校外の場所を活用 里山の資源のみで100年以上暮らせる場をつくる</p> <p>・ごちゃまぜの学び ごちゃまぜになれる廊下 学年関係なく 広い廊下 教室前が集会スペース ラーニングコモンズは必要 展示スペース</p> <p>・地域の人が寄り安くなる工夫 地域に開かれたゆったりした広い図書館 図書館 公的図書館と連携してすぐに読みたい本が入る ランチルームを地域に開放(午後はカフェ) ちょつとのぞいていこうかなと思えるような建物設計 多目的に使える校舎 ex.公民館、避難所、高齢者憩いの場 学校開放 音楽室(練習室)も夜間・祝日開放する だれでも使えるフリースペース</p> <p>・校舎の工夫 校舎の中に木のあたたかみを 地域の(村内の)木(竹、かや)を使った校舎 中庭 本を読めるようなベンチとか</p> <p>・一足製の導入 校舎に入る時に上履きに替えなくてもよい校舎 泥や土が自動的に落ちるようなマット(システム) 土足で気楽に入れるエリア</p> <p>・みんなで作る校舎 建設工事の段階から地域の方々、子どもが工事にかかわれる関わりしろをつくる 素材を集めるところからイベント化する(木を切る、茅を集める、竹を切るなど) 村の伝統的工法(木組み、手加工)の部分を一部でもつくる 毎年、村の素材を使った建築工事、工作教室を実施する (机からスプーン、校舎から鳥小屋まで)</p>
-------------------------	--	---	---